

平成24年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	マイノリティとジェンダーの視点からみる人口流動：教育資料開発にむけて
------	------------------------------------

研究代表者

氏名 菅美弥	所属 地域研究分野	職名 准教授
-----------	--------------	-----------

研究分担者

氏名 岩田重則	所属 地域研究分野	職名 教授
吉野晃	地域研究分野	教授
出口雅敏	地域研究分野	准教授
橋村修	地域研究分野	准教授
水津嘉克	地域研究分野	講師

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度)

本プロジェクトの大きな目的は、近年、トランスナショナル・ヒストリーやグローバル・マイグレーション論のなかで言われる、人口流動は人類の絶対的な常態であったという認識、すなわち、人類は *homo mobilis* (移動人) であるとの認識のもと、人口流動が日本、アジア、アメリカ、ヨーロッパの各地域のマイノリティやジェンダーをめぐる事象、ひいては、社会や文化全般に如何なる影響を与えてきたのか比較検討する、というものであった。構成メンバーの多様な研究領域を反映して、以下の問題群と目的を掲げて発足した。1) 世界各地のマイノリティとジェンダーの諸相について、歴史学、人類学、民俗学、社会学の方法論による個別研究を行い、それらの事例を比較検討する。2) 1) を踏まえ、各地域における人口流動を人類史レベルで把握する総合的なフレームワークを考察する。3) そのフレームワークに照らし合わせて、大学および高等・中等教育の授業で、マイノリティとジェンダーの視点からみた人口流動にかんする講義のための教材を作成する。

6名のプロジェクトメンバーは上記の問題群について、研究会において個別の発表を行い、質疑応答を通して、またそれらを授業に反映するため如何に教材作成に活かして行くのか、議論を重ねていった。加えて男女共同参画本部の特命准教授の成定洋子氏、常田道子氏にも発表をしていただき、質疑応答で出たコメント等が反映された研究成果を報告書に掲載した。さらに、2012年9月には東京経済大学田中景准教授を招き、男女共同参画本部との共催で研究会を開催した。このような研究会を通じて、日本、アジア、アメリカ、フランスといった多様な地域についての「マイノリティとジェンダー」をめぐる「人口移動」の諸相を、地域研究分野教員のみならず、男女共同参画本部のメンバーや外部招聘講師を交えて、比較研究の可能性について議論を深めることが出来た。

この1年間で、メンバーの人類学、民族学、歴史学、地理学、社会学といった見地から「マイノリティとジェンダーの視点からみる人口流動」について文字通り学際的な議論の遡上に載せることで、当初掲げた「比較地域研究の新たなフレームワークを考察」することへの共通理解の土壌が深まったことが最大の成果である。また、「人口流動」を「マイノリティとジェンダー」の視点で検証するという、「対象」と「研究者」のポジショナリティという難問について議論を深めたことも成果の一つである。これらの1年間の研究成果は報告書の形として出版したが、今後より一層、「比較地域研究の新たなフレームワーク」を提示するという壮大な目標に向けて、地域研究分野教員を中心に研究プロジェクトを継続していきたい。

研究成果発表方法

[発表論文名(口頭発表を含む)、氏名、学会誌等名(投稿中・投稿予定・執筆中)を記入する。]

※本経費を用いて、報告書(冊子等)を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。

なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。

The Shifting Boundary of "Color" and "Whiteness" Through the Creation of the New "Race" Categories of "Chinese and "Japanese": An Examination of Census Manuscript Schedules, 1850-1870, Miya Shichinohe-Suga, Asian American Studies Association Annual Conference, Seattle 2013 April 20. (発表予定)